第六十日目

師　範：韓国に対する政策で，意見が割れたため，西郷隆盛や板垣退助らは政府を去りました。

西郷隆盛は，薩摩の武士たちとともに西南戦争を戦うことになります。
しかし土佐藩の板垣退助は，国会を開いて，議論をして政策を決めるようなしくみをつくるべきだと主張しました。
民撰議院設立建白書を政府に提出しました。
これが１８７４年で，自由民権運動の始まりとなりました。

１８７４年　板垣らが民撰議院設立建白書を提出する。

この年を覚えましょう。

ペン太：では

「板垣と一つ話してみよう民撰議院」

「ひとつ」は１，「はなし」８７４とします。

師　範：だれが話してみようかはわかりませんが，武力ではなく，話し合いでものごとを解決していこうとする主張ということが伝わります。
いろいろな立場の人々が，議員を選出して，議会という場で利害や主張を調整し，税をどう集めて，どう使うかを決めるしくみは，近代の民主主義の制度の重要な柱です。
板垣退助らはこのような議会制度を日本に取り入れることを求めました。
このことによって，薩摩や長州の人々だけが優遇されて，政治の中心となることを防ごうとしたのです。

コン太：そうなのだ。では

「民撰の　いい話しする　板垣ら」

「(い) い」は１，「はなし」は８７４です。